

2型糖尿病患者の首尾一貫感を高めるための集団教育プログラムの開発と検証

著者	小田嶋 裕輝
学位名	博士（看護学）
学位授与機関	札幌市立大学
学位授与年度	平成28年度
学位授与番号	20105甲第6号
URL	http://doi.org/10.15025/00000172

平成 29 年 3 月 22 日

博士論文審査報告書

札幌市立大学大学院
看護学研究科長 松浦和代様

看護学研究科博士論文審査会

審査員（主査）	宮崎みち子
審査員（副査）	松浦和代
審査員（副査）	河原田まり子
審査員（副査）	北海道情報大学 喜多歳子

学位申請者氏名	小田嶋裕輝	学籍番号	1375001
申請学位	博士（看護学）	専門分野	機能看護学
論文題目	2型糖尿病患者の首尾一貫感を高めるための集団教育プログラムの開発と検証 Development and Validation of a Group Education Program to Enhance the Sense of Coherence in Type 2 Diabetic Patients		
審査日程	博士論文審査：平成 29 年 1 月 19 日（木） 公開発表会：平成 29 年 2 月 10 日（金）		
審査結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格		

審査結果の要旨

本論文は、予備審査（平成 28 年 7 月 6 日実施）および博士論文審査（平成 29 年 1 月 19 日実施）における指摘事項をほぼ適切に修正し、最終論文として提出されたものである。

本論文の研究目的は、2 型糖尿病患者の首尾一貫感（Sense of Coherence、以下 SOC）を高める集団教育プログラム（以下、SOC 集団教育プログラム）を開発し、その効果を検証することであった。この SOC は、病気を持つ人の対処行動と共通性のあることが報告されており、2 型糖尿病患者のセルフケア行動や、心理的負担感に関連する一要因として着目されている。しかし、この点に関し 2 型糖尿病患者を対象とした研究は行われていない。そこで、2 型糖尿病患者の SOC 向上が、糖尿病の理解やその予測、療養上の問題への対処等に効力を発揮するものと考え、学位申請者は本研究に着手した。

この目的達成に向け、本研究は、研究 1 「SOC 集団教育プログラムの開発」および研究 2 「SOC 集団教育プログラムの検証」の、2 段階で実施された。その研究デザインは、前者では文献研究と質的記述的研究、後者では準無作為化比較試験であった。

研究 1 では、綿密な文献研究およびインタビュー調査結果を統合し、SOC の下位概念を高める支援内容の抽出により、「SOC 集団教育プログラムの開発」に至った。また、研究 2 では、同プログラムの入院患者への実施は、その群間あるいは群内比較により、SOC の有意な改善の発見につながった。さらに、これは同プログラム参加者の認識の変化をもたらすことにつながった。この変化とは、患者が 2 型糖尿病治療との折り合いを見つけながら、自身の生き方に前向きになることであった。これは、継続療養を必要とする 2 型糖尿病患者に対する、看護職者の課題を明確にしたものである。したがって、本研究で開発されたこのプログラムは、今後の更なる緻密な検証を重ねる中で、更に有用可能な発展性を有するといえる。

本研究は、2 型糖尿病患者の日常の特徴および同治療に要する医療費増の動向等から、日本の医療における重要課題の一つに向かったものである。そこに、2 型糖尿病患者の生活管理行動や負担感情に関連する一要因とされている SOC に焦点を当てた点は、本研究の独創性を示すものである。また、この SOC を主軸とした集団教育プログラムは、継続療養を不可欠とする 2 型糖尿病患者の生き方にも影響を及ぼすことを明らかにした。これは、2 型糖尿病患者の生活の質向上に対する、看護職者の果たすべき役割を具体的に示しており、看護学の発展に貢献し得るものである。

以上より、本審査会は、①本論文が博士論文審査の視点および博士論文審査基準を満たす内容であること、②博士（看護学）の学位に適合する内容であること、を評価し審査結果を「合格」と判定する。なお、本審査会は、学位申請者の論文内容の把握状況および正確かつ緻密な説明能力を、審査過程および公開発表会において確認済みであることを申し添える。